

世田谷の元気な産業が見えてくる

# せたがや エコノミックス

TAKE FREE

みなさまと共に  
**50th**  
特別編集号  
SETAGAYA ECONOmix

平成31年(2019年)3月15日



農園主・高橋一仁さん

— 前回の掲載記事 —



せたがやエコノミックス No.41 (2016年12月15日号) 掲載

就農2年目にして、地域の小学生に収穫体験授業を行っていた高橋さん  
このころから都市農業のあり方について様々な考えをお持ちだったよう  
です



## みなさまと共に 50th 特別編集号 50号記念企画 いま、そして未来へ **都市農業の未来を考える JA東京青壮年組織協議会の理事に就任**

### 畑仕事にとどまらず 様々な活動にチャレンジ

本紙2016年12月号の「NEW POWER!」企画に登場していただいた高橋さん。「祖父が長い間続けていたので、どこかで継がなければ」という考えから就農した、約2年後のことでした。ちょうどそのころ「タイミングよく入らせて貰うことができた」という、東京都JA東京中央会が主催する「フレッシュ&Uターン農業後継者向けセミナー」にも参加。自分の畑で年間約60品目の作物を作るかわら、農家の先輩たちから実地で多くを学ばせて貰ったといいます。その後、地元のJA世田谷目黒青壮年部と、世田谷区農業青壮年連絡協議会の役員に就任。翌年には、JA東京青壮年組織協議会の理事も兼任し、都市農業のPRも行うなど、畑仕事以外の活動も増えていったそうです。



左: 環境への配慮は都市農家の重要課題。高橋さんの農地で作ったジャガイモは、東京都エコ農産物認証を受けている

右: 住宅に囲まれた農地。そのため、農園まで採れた野菜を買いに来る人も

### 高橋さんのあゆみ

- 2014年 20年勤めていた会社を退職し、実家を継ぐ形で就農
- 2014年 せたがや農業塾に参加
- 2016年 せたがやエコノミックス No.41に掲載
- 2016年 フレッシュ&Uターン農業後継者向けセミナーに参加
- 2017年 JA世田谷目黒青壮年部と、世田谷区農業青壮年連絡協議会の役員に就任
- 2018年 JA東京青壮年組織協議会の理事に就任
- 2019年 農地の拡大を検討中

### 就農時にはなかった 都市農業への想い

現在の畑は、掲載時に比べてビニールハウスが一つ増え、作付品目は少し減っています。これはビニールハウスで作るトマトなどの評判が良いことや、畑の土壌に合わないものが分かるようになった農家としての経験値から。この先は農地を1.5倍程度に拡大して、ハウスでの養液栽培への挑戦を検討しているといいます。また、経験を積むうちに、「いまも世田谷で農業を続けられるのは、代々農業を営んできた先祖をはじめ、先輩や前の世代の方たちが実績を残し、人と人のつながりを作ってくれたおかげ」だと気づいたといいます。単純に商品売るだけでなく、直接利益にならない活動でも、その活動を通じて人脈を培うことで、将来的に地元の農業振興につながると考えているそう。さらには、先祖から自家採種を続けている野菜を残すことや、都市農業全体のPRにも役立ちたいという、就農時にはなかった想いも生まれてきたそうです。前回の掲載以前から始めていた農業体験授業に参加した小学生のなかには「農家になりたい」と話す子どももいます。高橋さんが種を蒔く場所は、農園以外にまで広がっています。



都内区部小学校での出前授業

**高橋 一仁さん**  
玉堤2-4(農園所在地)  
※直売もやっています